

本年度（2023年度）の学校評価

<p>本年度の重点目標</p>	<p>1 建学の精神「社会で有為な人材の育成」に向けた教育活動の実践 (1) 最上位目標に基づいた教育活動の推進 (2) 「社会で有為な人材の育成」に向けた生徒募集の推進 (3) スクール・ポリシーの策定</p> <p>2 働き方改革の継続 (1) 業務のスクラップアンドビルド (2) 業務の平準化</p> <p>3 ハラスメントのない職場づくり (1) 内規【1105】ハラスメント防止ガイドラインの順守 (2) 関係資料を活用した研修</p> <p>4 当面の具体的課題 (1) 2024年度入学生からの大学校舎F棟・G棟への移転 (2) 新体育館構想検討 (3) 課題と関連分掌等</p>		
<p>担当</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価基準と方法</p>
<p>学習指導部</p>	<p>学力の向上と授業の充実 (1) ベル着の習慣化と授業改善の取り組みを土台とした授業規律の確保 (2) ICT活用の授業実践による学習理解度の向上 (3) 欠課時間数の多い生徒への早期対応と改善に向けた取り組み (4) 学力不振の生徒への早期対応と改善に向けた取り組み (5) 転退学者を出さないための早期対応と改善に向けた取り組み</p>	<p>(1) 授業改善のためのフローに沿った改善指導の促進と迅速な対応 (2) 教科ごとによるICT活用促進に向けた授業の実践と教科会議での情報共有 (3) 欠課時間数の多い生徒に対する教科・担任・学年の連携による指導の徹底 (4) 学力不振の生徒に対する教科・担任・学年の連携による指導の徹底 (5) 担任・学年・教科等の連携による細やかな指導と支援体制の構築</p>	<p>(1) 授業態度改善指導人数 【A】3名以下 【B】4～10名 【C】11名以上 (2) ICT活用の授業実践率調査（教科別の調査） 【A】60%以上 【B】59～40% 【C】39%以下 (3) 欠課時間数超過生徒数の調査（学年末で評価） 【A】5名以下 【B】6～10名 【C】11名以上 (4) 学力不振の生徒に関する調査（学年末で評価） 【A】30名以下 【B】31～60名 【C】61名以上 (5) 転退学者数に関する調査（学年末で評価） 【A】10名以下 【B】11～20名 【C】21名以上</p>
<p>情操教育部</p>	<p>(1) 学習と部活動、学校行事に集中して取り組みせ、活力ある学校作りを推進する ①生活指導（大同三訓の実践） ②各種委員会の活性化 ③ボランティア活動の活性化</p>	<p>(1) 遅刻指数（総遅刻数／全校生徒数） 【目標】1.0以下 【昨年度】1.4 (2) 第2段階以上の特別指導者数（延べ） 【目標】30名以下 【昨年度】30名</p>	<p>(1) 遅刻指数（総遅刻数／全校生徒数） 【目標】1.0以下【昨年度】1.4 【昨年度比較】15%減【A】、10%減【B】、±10%未満【C】、15%増【D】 (2) 第2段階以上の特別指導者数（延べ） 【目標】30名以下【昨年度】30名 【昨年度比較】15%減【A】、10%減【B】、±10%未満【C】、15%増【D】</p>
<p>情操教育部 （健康安全）</p>	<p>(1) 環境指導 (2) 環境安全 (3) 健康管理</p>	<p>(1) 環境指導 ①校内・学校周辺環境美化のボランティア活動を行い、奉仕の精神を養う。(1年生LHR利用) ②授業後の保健美化委員による校内美化活動（手洗い場の清掃）。 授業後のボランティア委員による校内美化活動（ゴミ集積場での分別・記名確認）。 (2) 環境安全 ①防災組織・火元責任者・緊急時対応策などシステムを拡充する。 ②環境安全点検の強化。 (3) 健康管理 ①生徒の健康管理と傷病への迅速な対応を図る。 ②心身ともに健康な人間形成を目指す。</p>	<p>目標達成のための具体的方策の実施状況で評価する。 (1) ボランティア清掃活動（チョコボラ）の実施状況 (2) 生活安全指導 避難訓練、施設整備、安全点検、安全管理の実施状況 (3) 保健指導・健康管理指導 各種検診・検査、調査統計、精神衛生相談（スクールカウンセリング）の実施状況</p>
<p>情操教育部 （生徒会）</p>	<p>(1) OECD「2030年に向けた生徒エージェンシー」に則った生徒議会・執行委員会・各種委員会活動の自立化（昨年度からの継続課題） (2) 生徒会を盛り上げる工夫を凝らす (3) 生徒会役員選挙のさらなる活性化</p>	<p>(1) 昨年度と同じ目標となるが、生徒会活動の更なる自立化に向けて課題の継続を行う。生徒自身が本校の現況をみつめ、よりよい学校、よりよい学校生活、地域をはじめとする様々な人々への貢献のあり方などを考え、行動を提案し、実践していくことができるようにしていきたい。 今年度から通学バッグの自由化が実現した。自分たちで学校生活を作るという意識が実感できたはずである。これをきっかけに生徒議会、各種委員会の活動をさらに活性化させていきたい。 (2) 地域、社会との関わりを通して大同生としてどのように貢献できるかを考えられるような活動を考え、実行していきたい。昨年度は南警察署との合同安全啓発運動や緊急支援募金の実施など、地域・社会貢献の活動が少しずつ増えている。今後も学校行事が、生徒が地域社会に貢献する場となるよう、生徒会一丸となって取り組んでいきたい。 (3) 生徒会役員選挙改革によって1人ひとりが一票の重みを感じるとともに、国政選挙に関心を持つ良い機会として、今後も取り組んでいきたい。まだまだ選挙に向けた広報活動等の活性化は不十分であり、候補者が自らの声をどう発信し、何を実行するか、そこに焦点を充てていきたい。</p>	<p>(1) 様々な学校行事での各種委員会の活動の状況から判断する (2) 地域社会と連携した取り組みの実施ができているか。現況に満足せず新しいことに目を向け取り組もうとしたか。 (3) 選挙活動の具体的方策や投票率の昨年度との比較</p>

<p>進路指導部 (進学指導)</p>	<p>(1) キャリア教育の確立 ⇒ 総合的な探求の時間と連動した年間計画と指導方法の確立。 (2) 高大連携の強化 ⇒ 情報交換を密にした高大連携の見直しと立て直しと情報の透明化、推薦規定の抜本的見直し (3) 校内推薦規定の見直し ⇒ 新カリキュラム、評価基準の変化に対応した校内推薦規定の抜本的な見直し ⇒ 大学入試改革により、各学校の入試内容の変化に伴う校内推薦規定の抜本的な見直し (4) オンライン決済システムの周知</p>	<p>(1) 外部講師や外部資料など、様々な媒体を利用しキャリア教育を確立していく。 (2) 高大連携のための情報共有を部内で行い、しっかりと議論する場を設ける。 (3) (2)同様に、情報共有と、議論する場を設ける。 (4)外部模試の見直しに合わせて、教員が金銭を扱うことの軽減を図る。</p>	<p>(1) キャリア教育の実施、運営を行い、生徒の進路実現の一助となったか。 (2) 高大連携のための情報交換・共有、透明化を図ることができたか。 (3) 校内推薦規定見直しのために様々な意見集約、議論が行うことができたか。 (4) 安全なオンライン決済システムを活用できたか。 【A】 目標を上回った 【B】 概ね目標を達成できた 【C】 目標にやや届かなかった 【D】 目標を大きく下回った</p>
<p>進路指導部 (就職指導)</p>	<p>(1) 一次合格率の向上 (2) 大手企業の合格者数の増加 (3) 「職業観」の育成と「学校斡旋就職者」に対する事前指導 (4) 離職率の低下 (5) 学校斡旋就職率100%の継続 (年内実現) (6) インターンシップの充実</p>	<p>(1) 「学校斡旋就職」に対する事前指導、学年会への情報伝達 (2) 外部講師による「職業講話」、「就職説明会」を通じ、就労意識の向上を図る (3) 就職試験に対する指導 (応募書類作成、筆記、面接、グループディスカッション等) 評価基準と方法</p>	<p>(1) 一次合格率90%以上 (大手企業合格率80%以上) 【A】 90%以上 (女子の合格率80%以上) 【B】 85%以上 【C】 80%以上 【D】 75%未満 (2) 学校斡旋就職率100%の達成 【A】 年内 【B】 1月 【C】 2月 【D】 3月 【E】 未達成 (3) インターンシップ参加 2年生在籍の1/4 【A】 20%以上 【B】 15%以上 【C】 10%以上 【D】 10%未</p>
<p>総務部</p>	<p>(1) 配信機材を活用することで式典・行事をさらに充実したものにしていく。 (2) P T A行事の新しい形態をP T A役員と連携し確立していく。</p>	<p>(1) 配信機材の操作に長けた教職員からの意見を反映し、協力して取り組む (2) P T A幹事会において積極的に意見交換を図る。</p>	<p>(1)、(2)とも 試みに対して教職員・保護者の感想から客観的に評価 【A】 目標を上回った 【B】 概ね目標を達成できた 【C】 目標にやや届かなかった 【D】 目標を大きく下回った</p>
<p>図書研修部</p>	<p>(1) 図書管理システム専用パソコンを使用し、その円滑な運用を図る。 (2) 引き続き、朝の読書の定着と充実を強力に推進する。朝読用図書貸し出しの増加を図る。 (3) 図書室の自習室としての利用促進を図る。 (4) 生徒図書委員会の機能充実を図り、生徒の図書室活用を促進する。 (5) 図書館だより「ライブラリー」の定期的発行を通じ、読書に対する啓発活動を推進する。 (6) 教員の授業等での新聞データベースの活用など、図書室利用の促進を図る。 (7) 教員研修を充実させ、学力と教養ある生徒の育成を図る。 (8) 保護者による授業参観について、より効果的な方法の実施を検討する。</p>	<p>(1) 朝読定着のために、毎朝校舎内を巡回し、生徒・担任へ喚起を促す。また、行事等での中止は極力避ける。 (2) 生徒図書委員による毎昼放課と業後の指導当番を決める。 (3) 新聞のデータベースを利用し、年1回以上図書室での授業実施や、課題など調べ学習実施の促進を働き掛ける。 (4) 経験者研修の5年研、10年研の充実を図る。 (5) 保護者による授業参観は、1年生対象11月に、それぞれ自由参観形式で実施する。</p>	<p>(1) 蔵書点検により判明した不明本、廃棄本の処理が適切にできたか。 (2) 朝の10分間読書の定着を推進できたか。 (3) 生徒図書委員会の機能充実を図り、生徒の図書室活用を促進できたか。 (4) 図書館だより「ライブラリー」の定期的発行等により、読書に対する啓発活動を推進できたか。 (5) 経験者研修の企画・推進はできたか。 (6) 保護者による授業参観について、より効果的な方法で実施できたか。</p>
<p>工務部</p>	<p>(1) 全員受験における資格検定試験の合格率向上 (2) 社会で通用する国家試験・技能試験等の推進と継続性 (3) 新カリに向けて実習内容の在り方と方向性 (4) 選コースの在り方と方向性 (5) 修技館機能移設による実習内容の刷新</p>	<p>(1) 効果見込める学習方法や終礼テストの内容変更と対策プリント等の活用を目指す。 (2) 周知徹底と学習指導体制・環境の強化、教授側のスキルアップを目指す。まら、外部講師等を通して技能伝承を図る。 (3) 教科書や社会で通用する内容に刷新を目指す。 (4) D U進学及び大手企業就職希望者を有するコース編成の検討を図る。 (5) 新規実習へのスムーズな移行と生徒への興味関心の有無の検討と実現を図る。</p>	<p>(1) 合格率向上 [昨年度比較] 【A】 +10% ≤ 合格率 【B】 -10% < 合格率 < 10% 【C】 -10% ≥ 合格率 (2) 国家・技能試験等の希望者数 [昨年度比較] 【A】 5名 ≤ 希望者数 (各種) 【B】 0名 < 希望者数 (各種) < 5名 【C】 0名 = 希望者数 (各種) (3) 39テーマ中実習内容の刷新 [変更数] 【A】 5テーマ ≤ 変更数 【B】 3テーマ ≤ 変更数 < 5テーマ 【C】 0テーマ ≤ 変更数 < 3テーマ (4) 存続の方向性と進学希望者への対策案の具現化の提示 [進捗度] 【A】 30% ≤ 進捗度 【B】 10% ≤ 進捗度 < 30% 【C】 0% ≤ 進捗度 < 10% (5) 計画委的な移行度合いと新規実習の関心度 【A】 70% ≤ 進捗度 【B】 50% ≤ 進捗度 < 70% 【C】 0% ≤ 進捗度 < 50%</p> <p>次年度課題：上記内容の更なる向上を目指す。</p>
<p>情報部</p>	<p>(1) 今年度情報機器の定期更新が滞りなく実施できたか。 (2) 来年度情報機器の定期更新が滞りなく立案できたか。</p>	<p>(1) 意見の収集、更新情報の公開を行い、情報を共有する。 (2) 意見の収集、更新情報の公開を行い、情報を共有する。</p>	<p>(1) 大きな問題なく、定期更新が実施された。 (2) より良い教育活動を目指せる情報機器更新を立案できた。</p>

広報部	<p>(1) 一定の合格基準を堅持し、学則定員 480 名の入学者の確保。 (508→459→459→475→517→456)</p> <p>(2) 推薦入試で 420 名の確保。 (411→393→388→422→413→383)</p> <p>(3) 一般入試志願者 1,500 名の確保。 (1,613→1,579→1,545→1,438 → 1,579 → 1,698)</p> <p>(4) 特進 25 名(2023 年度 27 名)、進学選抜 110 名(2023 度 112 名)の確保。</p>	<p>(1) 重点校重視の中学校訪問を展開、春のリーフレット、秋のオープンスクールチラシは生徒全員に配布。</p> <p>(2) 重点校は必ずアポ取り訪問をし、学年主任、進路主事と直接面談をして情報交換に努める。</p> <p>(3) 各担当者は 2020 年度中学校別推薦志願者数の増減を踏まえた上で、目標値を立てて渉外に当たる。</p> <p>(4) 担当者は、他の私学と比較して、本校の長所、短所は何かを客観的に把握し合い、広報活動を行う。</p> <p>(5) 本校進学実績と現状の生徒の報告や、オープンスクールなどで本校の特進クラスの良さをアピールする。</p> <p>(6) 併設校の有利な面を前面に出し、進学選抜コース及び、進学文理コースの良さをアピールする。</p> <p>(7) 施設の充実と、授業環境の良さをアピールする。</p>	<p>(1) 推薦入学者数 【A】 370 名以上 【B】 369～360 名 【C】 349～340 名 【D】 340 名未満</p> <p>(2) 入学者数 【A】 480 名以上 【B】 479～470 名 【C】 469～460 名 【D】 460 名未満</p> <p>(3) 一般入試志願者数 【A】 1,500 名以上 【B】 1,499～1,400 名 【C】 1,399～1,350 名 【D】 1,350 名未満</p> <p>(4) 特進エクセレント 【A】 25 名以上 【B】 24～20 名 【C】 19～15 名 【D】 15 名未満</p> <p>(5) 進学選抜 【A】 110 名以上 【B】 109～90 名 【C】 89～80 名 【D】 80 名未満</p>
普通科第 1 学年	<p>(1) 最上位目標「すべての生徒に汗と愛の経験を」を意識した行動を促す。</p> <p>(2) 学年目標を意識した行動を促す。 「自分の良いところを積極的に認められるようになる」</p> <p>(3) 基本的な生活習慣を確立させる。</p> <p>(4) 学習習慣を確立し、真剣に取り組み、仲間と学び合う姿勢を養う。</p>	<p>(1) 自律した行動、他者を尊重、知識・技能の習得を意識した判断、声掛けをする。</p> <p>(2-1) 日常生活や探究学習を通して、自身の長所や得意を発見し、それらを積極的に伸ばしていく。</p> <p>(2-2) 定期考査前に目標を設定させ、定期考査後には振り返りを行うことで、改善・成長させていく。</p> <p>(2-3) クラス・学年団での団結・連携はもとより、家庭と学校の連携を図り、友人や家族、教員など信頼できる人に積極的に相談できる環境を提供する。</p> <p>(3) 日常の声掛け、家庭との連携を通じて意識向上を図る。</p> <p>(4) スタサプを利用しながら、生徒の取り組み状況を把握しきめ細かい指導を目指す。</p>	<p>(1) (2) 生徒にアンケートを実施する。 【A】 80%以上 【B】 60%以上 【C】 40%以上 【D】 20%未満</p> <p>(3) 遅刻指導対象者及びイエローカード指導 【A】 0.8 未満、5%未満 【B】 1.0 未満、10%未満 【C】 1.2 未満、15%未満 【D】 1.4 以上、20%以上</p> <p>(4) 学習習慣の定着による成績向上の成果が得られたか。(追試験・追認定試験対象者) 【A】 5%以下 【B】 10%以下 【C】 20%未満 【D】 20%以上</p>
工業科第 1 学年	<p>(1) 最上位目標「すべての生徒に汗と愛の経験を」を意識した行動を促す。</p> <p>(2) 学年目標を意識した行動を促す。 「自分と他人に思いやりを持ち、自分のペースで小さな成功を積み重ねよう」</p> <p>(3) 資格取得の指導を通じ、持続的に取り組む力を養い、将来への希望を明確化する。全体で教室内の環境整備・美化活動を進め、学習環境を整えることを通じて学級全体の協力体制を築く。</p>	<p>(1) 自律した行動、他者を尊重、知識・技能の習得を意識した判断、声掛けをする。</p> <p>(2) 教員間のスローガンを意識していく。</p> <p>(3) 資格取得への継続的指導体制をつくり、全員受験種目の合格率向上を目指す。</p>	<p>(1) (2) 生徒にアンケートを実施する。 【A】 50%以上 【B】 45%以上 【C】 30%以上 【D】 10%未満</p> <p>(3) 全員受験資格の合格率の向上がなされたか。(各種資格試験に合格した生徒の割合) ・危険物取扱者 丙種 【A】 合格率 80%以上 【B】 70%以上 【C】 60%以上 【D】 50%以上 ・計算技術検定 3 級 【A】 合格率 90%以上 【B】 80%以上 【C】 70%以上 【D】 60%以上 ・情報技術検定 3 級 【A】 合格率 90%以上 【B】 80%以上 【C】 70%以上 【D】 60%以上</p> <p>(4) 工業科 1 年担任団で振り返りをする。</p>
普通科第 2 学年	<p>(1) 「汗と愛」を全ての生徒に経験させるべく、各生徒に考える機会を与え、よき実践者となるように行動変容を促す。</p> <p>(2) 修学旅行を学びの一助としてとらえ、平和学習を始めとする事前学習を充実させて成功を収める。</p> <p>(3) 学習習慣定着を支援し、進路に対する意識向上、目標設定の確立を促す。</p> <p>(4) 昨年度からの「さわやか大同生になる」を継続的に指導し、更なるレベルアップさせる。 ①挨拶をする、②制服を正しく着用する、③整理整頓、教室をきれいに掃除する、④穏やかな気持ち、目標をもって授業を受ける、⑤新しいことをはじめてみる</p>	<p>(1) 年度当初の HR にて「汗と愛」、目標設定する時間を設定し、当事者意識を持たせる。その目標のために行動できる人材を育成する。</p> <p>(2) 学年で役割を分担し、担当者を中心にして計画的に事前学習を進める。主体性を発揮できるような取り組みを持たせる。</p> <p>(3) 担任、教科担任、進路指導部と連携し、継続した学習指導を展開する。適宜、進路の情報や学年会にて共有する。スタサプなどの学習動画も積極的に使うことを提案する。</p> <p>(4) 日常の声掛け、HR 活動、学年集会などを通じて意識向上を図る。昨年度と同レベルから社会人に 1 歩進んだことを意識させる。</p>	<p>(1) 各クラスの成果物、生徒の目標設定の度合いから判断する。</p> <p>(2) 修学旅行後に振り返りアンケートを実施し、その理解度と満足度から判断する。 【A】 80%以上 【B】 65%以上 【C】 50%未満</p> <p>(2) 探究成果物を作成させ、主体的に考えることができたか否かにより判断する。</p> <p>(3) スタサプの取り組み状況、学部試験や模試の取り組み状況から判断する。</p> <p>(4) 年度末の振り返りシートを実施し、生徒の取り組みについて自己採点させる。 【A】 80 点以上 【B】 60 点以上 【C】 60 点未満</p>

工業科 第2学年	<p>(1) 基本的な生活習慣を基礎とし、社会人での第一歩として身だしなみ・最低限の言動を身に付けさせる。</p> <p>(2) 資格取得の指導を通じ、持続的に取り組む力を養い、将来への希望を明確化する。</p> <p>(3) 授業・実習等を通じて、学習環境および作業環境における良い雰囲気作りを徹底する。</p> <p>(4) 周囲の雰囲気や言動を理解し、各自が自主的に行動し、修学旅行を見据えた集団行動が出来る。</p>	<p>(1) 挨拶、教室巡回、HR、学年集会等を通じて、身だしなみ・時間厳守の意識をより一層高める。</p> <p>(2) 資格取得への継続的な指導体制をつくり、各受験種目における合格率向上を目指す。</p> <p>(3) HRでの継続的な指導により、教室の美化と学習環境整備に学級全体で取り組む事を定着させる。</p> <p>(4) 工業人としての基本的な行動を具体的に生徒へ示し、実践できるように指導していく。</p> <p>(5) 担任団と協力し基礎学力の向上を目指し生徒をピックアップし継続的に指導していく。</p>	<p>(1) 学習習慣の構築により成績向上の成果 ・追試験／追認定試験対象者 【A】5%未満 【B】10%未満 【C】15%未満 【D】20%未満</p> <p>(2) 生活習慣で時間を意識した行動(遅刻指数) 【A】0.8以上 【B】1.0以上 【C】1.2以上 【D】1.4以上</p> <p>(3) 校則を意識した生活について (イエローカードを複数枚対象とした生徒) 【A】2.5%未満 【B】5%未満 【C】10%未満 【D】15%以上</p> <p>(4) コース毎による全員受験資格の合格率 ①危険物取扱者 乙種第4類(全コース) 【A】50%以上 【B】40%以上 【C】30%以上 【D】20%以上 ②計算技術検定 2級(Dコース) 【A】40%以上 【B】30%以上 【C】20%以上 【D】10%以上 ③情報技術検定 2級(Hコース) 【A】60%以上 【B】50%以上 【C】40%以上 【D】30%以上 ④情報活用試験 3級(Sコース) 【A】80%以上 【B】70%以上 【C】60%以上 【D】50%以上 ⑤情報デザイン検定 初級(Sコース) 【A】70%以上 【B】60%以上 【C】50%以上 【D】40%以上</p> <p>(6) 本校の中核を担う集団として、学習意欲の向上ならびに修学旅行を通じて秩序を乱すことなく、学校生活を送ることができたか。</p>
普通科 第3学年	<p>(1) 進路目標実現のため、目標設定を明確にし、個に対するきめ細かい進路指導ができる体制をつくる。</p> <p>(2) 総合的な探究の活動として卒業論文を作成する。</p> <p>(3) 社会に貢献できる人材を育成する。</p>	<p>(1) 進路を意識した言動を心掛け、生徒の進路意識を高める。</p> <p>(2) 適宜生徒と面談を実施し、生徒の進路目標を把握し、適切な指導を行う。</p> <p>(3) 進路指導部と密に連携を取り、情報交換する。</p> <p>(4) 総合的な探究の時間で卒業論文を作成し、興味関心のある事柄、社会への疑問、進路に関連した事柄など、生徒自らがテーマを設定し、それについて調べさせ、その上で生徒自身が考えたことや気づきを文章で表現する。</p> <p>(5) 進路指導と卒業論文の作成を通じて、高校三年間で考えさせてきた、自己、自他、自立、自律について考え、社会の一構成員としての生徒一人ひとりのこれからの生き方について考えさせる。</p>	<p>(1) (2) (3) 進路指導部と密に連携を取り、進路実現ができたか、またその過程をふまえて判断する。</p> <p>(4) (5) 卒業論文の完成状況で判断する。</p>
工業科 第3学年	<p>(1) 基本的な生活習慣の継続と社会が求める人材になる為の身だしなみ・最低限の言動を身に付ける。</p> <p>(2) 進路実現に向けて ・就職希望者・・・採用試験における第1希望での内定者向上、就職率100%を堅持する。 ・進学希望者・・・大同大学進学をはじめ、希望進学先(大学、専門学校)への進学に向けた自学自習の意欲向上。</p> <p>(3) 周囲の雰囲気や言動を把握し、各自が自主的に行動し、集団全体としての行動に繋げるようにする。</p>	<p>・挨拶、教室巡回、HR、学年集会等を通じて、身だしなみ・時間厳守等のモラルの意識を徹底する。</p> <p>・進路実現において個人の将来の目標を明確にさせた上で、面接及び対策指導の実施を行う。</p> <p>・進学希望者は、学年団で協力しつつ自学自習の実施を指導し、進学に必要な知識を磨く。</p> <p>・就職希望者は、工業人としての基本的な行動を具体的に生徒へ示し、実践できるように徹底指導していく。</p>	<p>(1) 落ち着いた学習環境での授業がどれだけできたか。(授業態度調査の指導を受けた生徒の割合) ・授業態度調査: 【A】1%未満 【B】3%未満 【C】5%未満 【D】5%以上</p> <p>(2) 学習習慣の確立により成績向上の成果が得られたか。 ・ベネッセテスト(B以上): 【A】30%以上 【B】20%以上 【C】10%以上 【D】5%以上 ・追試験／追認定試験対象者: 【A】5%未満 【B】10%未満 【C】15%未満 【D】15%以上</p> <p>(3) 生活習慣の確立により時間を意識した行動ができたか。(遅刻指数) 【A】1.0未満 【B】1.2未満 【C】1.4未満 【D】1.4以上</p> <p>(4) 学校生活における校則を意識した生活が送れていたか。(イエローカードを複数枚対象とした生徒の割合) 【A】10%未満 【B】20%未満 【C】30%未満 【D】30%以上</p> <p>(5) 就職率100%を実現できたか。(就職応募の状況を踏まえて、事前事後指導等で評価) 【A】就職率100% 【B】就職率95% 【C】就職率90% 【D】就職率90%未満</p> <p>(6) 大同大学進学希望者の進路状況が本人目標に見合った形で実現できたか。 【A】大同大学30名以上 【B】大同大学25名以上 【C】大同大学20名以上 【D】それ以下</p> <p>(7) 全員受験資格の合格率の向上がなされたか。(各種資格試験に合格した生徒の割合:合格率) ①旋盤技能検定(生産システムコース)</p>

			<p> 【A】 100%以上 【B】 95%以上 【C】 90%以上 【D】 85%以上 ②初級CAD検定（電子機械コース） 【A】 80%以上 【B】 70%以上 【C】 60%以上 【D】 50%以上 ③情報活用検定2級（電子情報コース） 【A】 70%以上 【B】 60%以上 【C】 50%以上 【D】 40%以上 ④色彩検定3級（情報デザインコース） 【A】 70%以上 【B】 60%以上 【C】 50%以上 【D】 40%以上 </p> <p> (8)年間を通じての生徒の成長度合いを見て、社会に有為な人材として、卒業させても良いレベルであったか。 </p>
--	--	--	--